

# わが国の特別支援学校及び障害者施設等における スヌーズレンの教育・福祉実践

—これまでの取組みと今後の展望—

企画者	姉崎 弘 (常葉大学教育学部)
司会者	井上和久 (大和大学教育学部)
話題提供者	姉崎 弘 (常葉大学教育学部) 藤澤 憲 (和歌山県立和歌山さくら支援学校) 川合由美 (浜松市発達医療総合福祉センター) 桃井克将 (徳島文理大学保健福祉学部) 嶺也守寛 (東洋大学ライフデザイン学部)
指定討論者	高橋真琴 (鳴門教育大学大学院学校教育研究科)

KEY WORDS: スヌーズレンの教育・福祉実践、特別支援学校、障害者施設

## 【企画趣旨】

本学会において、これまで「わが国における「スヌーズレン教育」の導入と推進—肢体不自由特別支援学校の重度・重複障害児の教育を中心に—」(2012年)、「わが国におけるレジャー、教育・療育、セラピーとしてのスヌーズレンの実践及び研究の推進—障害者支援施設・特別支援学校・療育センター・小規模事業所・家庭での実践報告を中心に—」(2013年)等、これまで4回にわたってスヌーズレンの自主シンポジウムを開催し、わが国のスヌーズレン実践の現状と課題を中心に報告し議論を重ねてきた。

本シンポジウムでは、昨年度までのスヌーズレンの実践および研究に関する諸報告等を踏まえて、今後の特別支援学校や障害者施設等での実践のあり方について、学校教員や施設職員、研究者、機器の開発者、それぞれの立場から話題提供と討論を行うことで、これまでのわが国のスヌーズレン実践の成果と課題を総括すると共に、今後の方向性を展望したいと考える。(姉崎 弘)

## 【話題提供者の趣旨】

### 1. 「スヌーズレン成立のための基本要件と肢体不自由特別支援学校における全国調査結果から」 (姉崎 弘)

昨年の学会で、姉崎は先行文献を踏まえてスヌーズレン成立のための基本要件として5つを挙げた。また肢体不自由特別支援学校の重度・重複障がい児担当教員にスヌーズレンの授業に関する全国調査を実施し、今後スヌーズレンの授業づくりに関する研修会の開催やスヌーズレンの理論と実践に関する基本テキスト作成の必要性を報告した。これらを踏まえて、今後求められる取組みを具体的に提案したい。

### 2. 「和歌山県の特別支援学校におけるスヌーズレンの授業の現状と課題」 (藤澤 憲)

昨年の学会では、和歌山県内の12校ある特別支援学校の教師間では、「スヌーズレンはレジャーであり、治療法や教育法ではない」との認識が強く、子どもの実態把握の方法の一つとして活用されるにとどまっていることを報告した。また、特別支援学校では年々児童・生徒数が増え、教室数の確保等が課題とされている。これらの課題を踏まえて、今後のスヌーズレンの教育実践の取組を提案したい。

### 3. 「重症心身障害者施設でのスヌーズレン実践の現状と課題」 (川合由美)

重症心身障害者施設において日中活動のリラックスタイム

にリラクゼーションを目的にしたスヌーズレンを取り入れている。対象者にJSI-Sシートを活用し個別の感覚の特徴を把握し、6つの感覚の項目毎にまとめた。現在、対象者の感覚の特徴に関する結果をふまえ、スヌーズレンの効果的な取組みについて検討し、模索している。ここでは、今後の重症心身障害者へのスヌーズレン活動の具体的実践方法について提案したい。

### 4. 「福祉施設等でのスヌーズレンの取組みと課題」

(桃井克将)

報告者の関わるいくつかの福祉関連施設等では、スヌーズレンルームを作り、利用者に対してスヌーズレンを実践し、その効果が得られている。一方で、スヌーズレンに関する知識不足等により、スヌーズレンを効果的に実施できていない実情も見受けられる。本シンポジウムでは、福祉施設での実践事例を紹介するとともに、そこから浮かび上がる課題点を踏まえ、今後の展望を述べる。

### 5. 「スヌーズレン機材(バブルチューブ)の開発、産学連携による取組みについて」 (嶺也守寛)

施設等にスヌーズレンルームを設置する際にネックとなるのが機材導入である。カタログを見ながら導入に必要な機材の見積を取ったところ、その金額の大きさに愕然とし、管理職側から費用対効果の説明を求められ、決裁が下りないといった事態は珍しい話ではない。また、スヌーズレン機材は国内では生産されておらず輸入品であるために、導入後の故障した場合などの対応に不安を感じることも実際に存在する。ここではそれらを解決するための取組みとして産学連携の事例について報告する。

## 【指定討論者の趣旨】

スヌーズレンの教育・福祉実践を振り返ると、肢体不自由特別支援学校や重症心身障害を中心とした支援機関で浸透してきた経緯がある。一方、特別支援教育が本格実施になってから10年が経過し、スヌーズレンは、学校教育や福祉実践における様々な場面での活用に広がりを見せている。今回のシンポジウムでは、今後のスヌーズレン研究や実践の方向性についても討議を深めていきたい。(高橋真琴)

(ANEZAKI Hiroshi, INOUE Kazuhisa, FUJISAWA Ken, KAWAI Yumi, MOMOI Katsumasa, MINE Yasuhiro, TAKAHASHI Makoto)